

施設の安全対策

ホームの安全対策

① 非常停止ボタン



非常停止ボタン

列車との接触事故を防ぐため、東急線 83 駅のホーム※に非常停止ボタンを設置しています。ボタンを操作すると、付近を走行する列車は異常を知らせる信号を受信し、運転士は列車を緊急停止させます。お客さまはボタンを操作しても絶対に線路へ降りないでください。※目黒線（設置工事中）、世田谷線を除く



もしも線路に人が転落したら、非常停止ボタンを押して通報してください。

② 点状ブロック



内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客さまに安心してご利用いただけるよう、ホーム上に点状ブロックを設置しています。また、池上線・東急多摩川線のセンサー付固定式ホーム柵設置駅は、ホームの内側を示す内方線を整備しています。



③ 駅係員よびだしインターホン・防犯ボタン



駅係員よびだしインターホン



駅係員、警備員によるお手伝いが必要となった際に通報いただける、駅係員よびだしインターホンや防犯ボタンを、ホーム上やトイレに設置しています（押しても列車は止まりません）。



駅構内で不審物や不審者を発見した時や、トラブル発生時、また具合が悪そうなお客さまを見かけた際に押してください。

④ ホーム先端部塗装



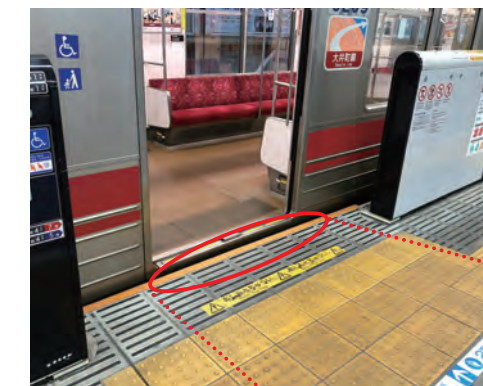
ホームの先端部をオレンジ色に塗装し、線路転落や、列車とホームとの隙間への転落を防ぐため、お客さまへの注意喚起を行っています。

⑤ ホームドア



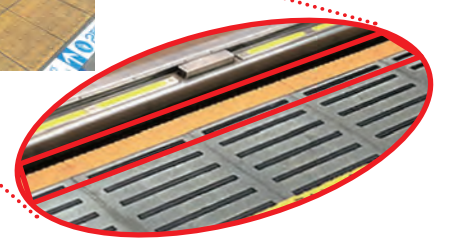
お客さまがホームから転落したり、列車と接触したりする事故を防止するため、東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線の全駅にホームドアを設置しています。また、池上線・東急多摩川線の全駅には、センサー付固定式ホーム柵を設置しています。池上線五反田駅は、2024 年度中のホームドアの設置を予定しています。

⑥ 転落防止ゴム



お客さまが足を踏み外して列車とホームとの隙間に転落しないように、ホームの側面に隙間を狭めるための転落防止ゴムの設置を順次進めています。

また、ホームに足元注意ステッカーの表示を行っています。



⑦ 隙間転落注意喚起サイン



過去に、ホームと車両の隙間への転落が発生している箇所やその周囲に「こども隙間転落防止プロジェクト」のオリジナルキャラクター「スキマモリ」のサインを貼り付け、注意喚起を行っています。（p.33「こども隙間転落防止プロジェクト」参照）

⑧ 転落報知器

ホームの下に転落報知器を設置しています。万が一お客さまがホームと列車の隙間から転落すると、センサーが作動し駅係員や乗務員に警報音で知らせます。



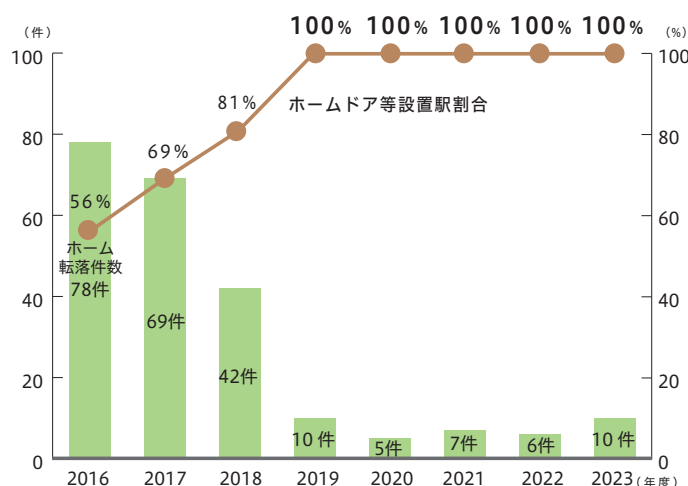
全駅へのホームドア設置

2019年度末までに東急線全駅※へのホームドア、またはセンサー付固定式ホーム柵の設置を完了させ、ホーム上の安全性向上、安定運行に大きく寄与しています。

※世田谷線・こどもの国線を除く

▶ホーム転落件数とホームドア等設置駅割合の推移

ホームドア等の設置に伴い、ホームからの転落件数が大きく減少しています。



●安全にご利用いただくための、お客さまへのお願い

より安全にホームドアをご利用いただくために、お客さまへのお願いや注意喚起を、さまざまな形で行っています。

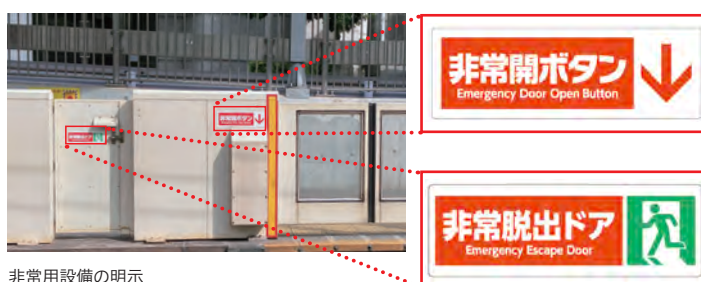
ホームドアから身を乗り出したり、ホームドアに物を立て掛けたりすることによる事故などを防止するため、注意事項をステッカーにして貼付し、お願いと呼びかけを行っています。



ホームドアの注意事項ステッカー

●非常用設備の明示

お客さまに日ごろから、非常用設備を認識していただけるよう、国土交通省のガイドラインに沿ったピクトグラムの明示を順次行っています。



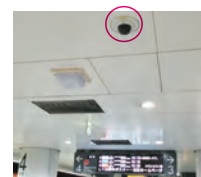
非常用設備の明示

駅構内の安全対策

お客さまに安心してご利用いただけるよう、さまざまな対策を行っています。

●防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪抑止を目的として、ホーム、改札口、券売機、定期券うりばなどに防犯カメラを設置しています。



駅構内の防犯カメラ

●地下駅の安全対策

国土交通省の基準に基づき、2通路以上の避難通路の確保や、火災時におけるホーム階の排煙のための非常電源設備の設置などの対策を、全ての地下駅で実施済みです。

また、停電に備えて非常用発電機を設置しており、トンネル内を含めた非常照明や駅放送設備など、防災上必要な機能が確保されています。



避難通路（非常口のご案内）の表示を大きく分かりやすくしました



停電時に稼働する駅の非常用発電機

●エスカレーターの安全対策

エスカレーターは、異常時に緊急停止をすることがあります。停止時のお客さまの転倒やつまずきなどの事故を低減することを目的として、エスカレーターを緩やかに停止させる改修を、順次行っています。



●駅の天井改修工事

駅構内天井の安全性向上のため、耐久性・耐震性に優れた天井材への改修を、計画的に実施しています。

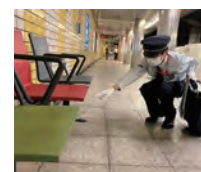


●駅係員、警備員などによる安全確認

日ごろから、定期的に駅係員および警備員などが駅構内を巡回し、不審物、施設の不備などお客さまに危険がおよぶ箇所がないか、確認、警備を実施しています。

また、お客さまの流れの変化などに対応し、警備体制の見直しを行っています。

駅構内の総合案内板、駅構内図や駅周辺案内図などの掲示物については、落下を未然に防ぎ、お客さまの安全を確保するため、定期的に目視と触手による点検を実施しています。



駅構内の巡回



駅構内の掲示物

車両・車内の安全対策

お客さまに安心してご乗車いただけるよう、さまざまな安全対策を行っています。

● 車内防犯カメラ

LED蛍光灯一体型の防犯カメラを当社が保有する全ての車両に導入しています。運輸司令所からでも映像を確認することが可能です。全車両への導入を通して、車両内のセキュリティ向上および車両内トラブル発生時の対応の迅速化を図っています。

※プライバシーの保護について

防犯カメラを設置している車両であることをお客さまへ周知するステッカーを、車内に掲出しています。記録映像の閲覧については、閲覧できる社員を限定するなど、関係法令や社内規程に則り厳重に管理します。



● 引き込まれを防止するドア素材

2020系、3020系、6020系などの新造車両には、ドア自体にすべる素材を採用しており、開扉時の引き込まれを防止しています。また、引き込まれに加え、乗降時のはさまれも防止するため、乗降口端部と戸先を容易に認識できる黄色いラインの注意喚起シールも貼付しています。



● ドア引き込まれ注意喚起ステッカー

ステンレス製のドアには、すべる素材を使用した車内ステッカーを貼付しており、イラストによる注意喚起も実施しています。



● ガラス破損のリスク低減策

車両ドアは、ドアガラス破損防止のため強化ガラスおよび複層ガラスを使用しています。また、一部の車両には割れたガラスが飛散しないように透明の飛散防止フィルムを貼り付けて安全性向上を図っています。

夏場の遮熱、冬場の断熱にも高い効果のあるフィルムを使用しており、空調消費電力量を削減し省エネ効果もあげています。



飛散防止フィルム

● 車内非常通報ボタン

具合の悪いお客さまや車内の異常を乗務員に知らせる装置で、車両連結部付近や窓の横、車いすスペースに設置しています（位置は車両により異なります）。



※東横線・田園都市線、大井町線（6000系、6020系、9020系）、目黒線、東急新横浜線、池上線、東急多摩川線、世田谷線、こどもの国線では乗務員と通話することができます。



ご乗車中、周囲で具合の悪いお客さまがいらっしゃる場合や、車内で異常が発生した場合に押してください。

● 緊急ブレーキ装置

万が一、運転士の体調が急変したときに安全を確保するため、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキがかかる装置を全車両に搭載しています。

● 誤開扉防止策・列車の転動防止策

列車が走行中、もしくは動き出した後に扉が開くことがないよう、誤開扉防止策と列車の転動防止策の2つの対策を行っています。

誤開扉防止策とは、「列車の発車直後に誤ってドアを開ける操作をしてもドアが開かない仕組み」で、当社が保有する全ての車両に導入しています。

列車の転動防止策とは、「ドアが開いた状態で運転士が誤ってブレーキを緩めてしまった際に列車が転動しない仕組み」で、当社が保有する全ての車両※に導入しています。

※こどもの国線を除く

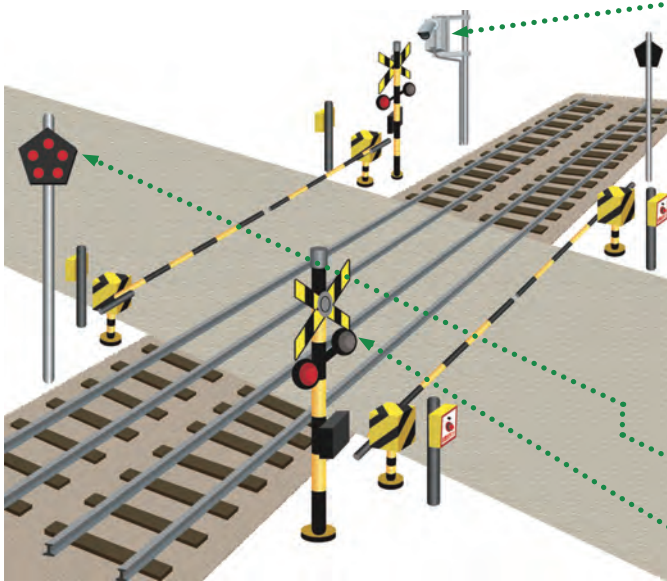
安全MEMO

電車のドアに手やかばんをはさんでも、ドアは自動では開きません。ケガをされる可能性があり大変危険です。
かけこみ乗車はおやめください。



踏切の安全対策

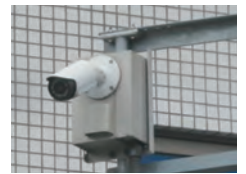
踏切での事故を防ぐために、さまざまな対策を行っています。



踏切監視カメラ

踏切事故の抑止手段、事故発生時の状況確認手段を確立する必要性が高まっていることから、全線※で踏切監視カメラを設置しています。

※こどもの国線を除く



非常ボタン



踏切内に人や車が立ち往生してしまったときなど緊急の場合に、非常ボタンを押すと、特殊信号発光機が赤く点滅して接近する列車の運転士に異常を知らせます。全ての踏切に設置しています。

特殊信号発光機



また、東横線・目黒線・大井町線・こどもの国線では、ATCと連動しているため、接近する列車を自動的に減速させます（田園都市線・東急新横浜線には踏切はありません）。

3D式、光線式踏切障害物検知装置

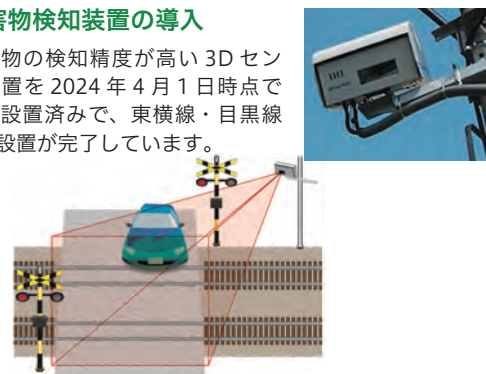
踏切障害物検知装置は、自動車などが踏切で立ち往生した場合にセンサーが検知し、接近する列車の運転士に異常を知らせる信号を送る装置です。当社では、2021年7月に自動車通行禁止の踏切を含む全135カ所の踏切※に設置を完了しました。

※世田谷線・こどもの国線を除く

▶3D式踏切障害物検知装置の導入

当社では、障害物の検知精度が高い3Dセンサーを使用した装置を2024年4月1日時点で111カ所の踏切に設置済みで、東横線・目黒線については100%設置が完了しています。

引き続き3D式踏切障害物検知装置の導入を行います。



3D式踏切障害物検知装置の検知イメージ



非常ボタンは、踏切内に人や車などが立ち往生しているなど緊急の場合に押してください。

警報灯

通行する車や人が踏切から一定の距離以上離れていても視認できるように警報灯を設置しています。視認性の向上施策として、車のドライバーから見やすい全方位警報灯を一部の踏切道に導入しています。



全方位警報灯

● 踏切除却に向けた連続立体交差事業

大井町線戸越公園駅付近には6カ所の踏切があり、全ての踏切が、ピーク時の遮断時間が40分以上となる、いわゆる「開かずの踏切」となっています。

本事業は、これらの踏切を除却するため、戸越公園駅付近の約0.9kmの区間を高架化するもので、東京都が施行する都市計画事業として2023年10月に都市計画決定されました。

現在、事業区間周辺で測量作業を進めています。早期事業着手に向け、引き続き関係自治体と連携していきます。



戸越公園駅前

地下区間の安全対策

列車が地下トンネル区間で緊急停止した際、安全に避難できるように対策を行っています。

● トンネル照明の設置

お客さまが避難のためにトンネル内を歩行する際、足元を確認しやすいようトンネル区間全てに照明を設置しています。



トンネル照明

● 蓄光式避難誘導看板

トンネル区間において、蓄光式の避難誘導看板を設置しています。これにより異常発生時に照度が限られた状況においても隣駅までの距離が分かり、お客さまを安全に駅まで誘導できます。



蓄光式避難誘導看板

〈設置区間〉

東横線：渋谷駅～代官山駅間、東白楽駅～横浜駅間

目黒線：目黒駅～洗足駅間

東急新横浜線：新横浜駅～日吉駅間

田園都市線：渋谷駅～二子玉川駅間、つきみ野駅～中央林間駅間

池上線：戸越銀座駅～旗の台駅間

東急多摩川線：多摩川駅付近～沼部駅間

● 地下駅での老朽施設更新

開業後 45 年以上が経過した田園都市線地下区間の 5 駅（池尻大橋駅・三軒茶屋駅・駒沢大学駅・桜新町駅・用賀駅）で、安全・安心の向上を目的としたリニューアル工事を順次推進中です。第 1 弾となる駒沢大学駅リニューアル工事は 2021 年度に着工し、更新が完了した箇所から段階的に供用を開始しています。2024 年度中に竣工する予定です。

老朽設備更新による駅施設の安全向上のみならず、空調設備の増設・改修やバリアフリールートを整備など、お客さまがさらに安全・快適に駅をお使いいただける取り組みを進めています。2023 年 5 月には第 2 弾となる桜新町駅のリニューアル工事に着工しており、2026 年夏に竣工を予定しています。駒沢大学駅に続き、老朽設備の更新を行うとともに空調機を大幅に増強・新設し、駅構内の快適性向上を目指します。



駒沢大学駅コンコースイメージ



桜新町駅ホームイメージ

高架下などの安全対策

● 架道橋監視カメラの設置

高さが低く自動車が接触しやすい架道橋には、異常時の現地状況の早期把握と対応の迅速化を目的として、監視カメラを設置しています。



架道橋監視カメラ



監視カメラの映像

● 高架下監視カメラの設置

鉄道高架下の防犯体制の強化と、事件・事故の早期発見・犯罪の抑止効果を目的として、鉄道高架下に防犯カメラを設置しています。

運転時の安全対策

● 運転士保護メガネの導入

列車運転時の視認性向上、運転士の目の保護や疲労軽減による安全性の向上を目的に、運転士保護メガネ（偏向レンズ）を導入し、希望者が着用しています。

導入効果は次のとおりです。

- ① 直射日光と反射光によるまぶしさの軽減による視認性の向上
- ② 直射日光と反射光をカットすることによる疲労とストレスの軽減



着用して運転している様子

● 車両前方カメラ（ドライブレコーダー）の搭載

当社が保有する全ての車両に、車両前方カメラを搭載しています。事故や列車運行に対する妨害行為などが発生した場合の状況確認や原因究明に活用しています。



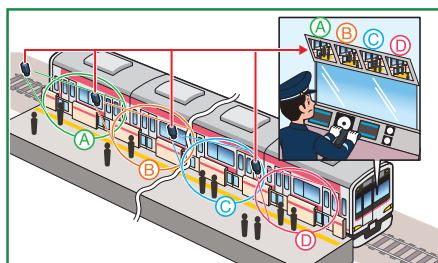
車両前方カメラ

ワンマン運転時の安全対策

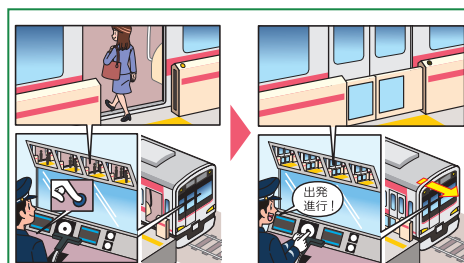
東急線では、東横線・目黒線・東急新横浜線・池上線・東急多摩川線でワンマン運転を実施しています。ワンマン運転時も安全に運行できるよう、ホームドアなどの設備の他、もしもの時の応援体制の構築など、安全対策に取り組んでいます。

●乗降確認モニターの設置

運転席にお客さまの乗降を確認できるモニターを設置しています。



ホームに設置したカメラでお客さまの乗降を撮影し、運転席のモニターに投影



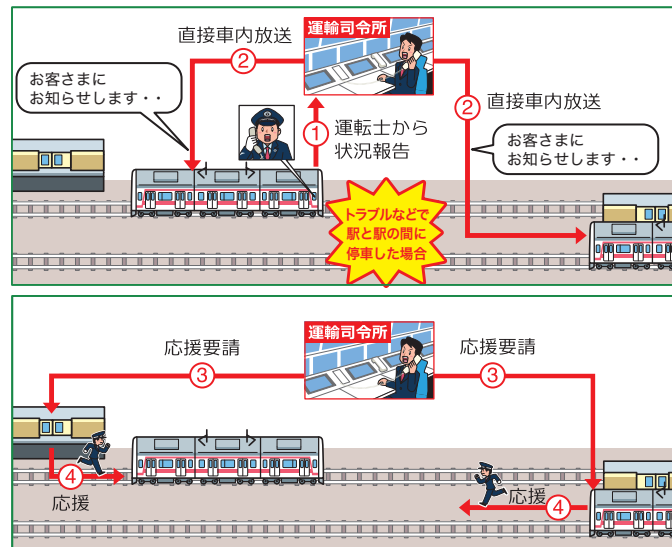
運転士がモニターを確認。ドアを開閉

●車内・運転士・運輸司令所の連携



車内のお客さまが「車内非常通報ボタン（1車両に1～4カ所設置）」を押すと、運転士が応答します。運転士が応答できない場合は、運輸司令所に自動で転送され、運輸司令所の司令員が応答します。

●運輸司令所からの車内放送と応援者要請



異常時、やむを得ず駅と駅の間に停車した場合、運転士または運輸司令所から車内放送で状況をお知らせします。

避難誘導が必要な場合には、運輸司令所が応援要請を行い、最寄り駅などから応援者が駆け付けます。また、必要に応じて、運輸司令所から警察、消防に対応を依頼します。

AI 画像解析技術によるバリアフリー合図検知システムの検証



ワンマン運転中の運転士補助を目的に、ホームで介助が必要なお客さまのご案内に用いる駅係員の合図（バリアフリー合図）を検出する、実証実験を実施し、導入に向けて検討を進めています。これは、AI 画像解析技術を使用したものです。